令和6年1月26日 開会

令和5年度 第2回紫波町総合教育会議 議事録

紫波町教育委員会

令和5年度 第2回紫波町総合教育会議 議事録

1 日 時	令和6年1月26日 午後2時から午後3時30分まで		
1 場 所	紫波町役場 会議室 301-303		
1 出席者	町長	熊 谷	泉
	教育委員会 教育長	侘 美	淳
	教育委員会 教育長職務代理者	畠 山	秀一郎
	教育委員会 委員	森 田	英 仁
	教育委員会 委員	内 城	寛 子
1 欠席者	教育委員会 委員	滝 澤	真千子
1 説明員	副町長	藤 原	博 視
	企画総務部長	鎌 田	千 市
	教育部長	阿 部	薫 之
	企画課長	小 川	篤
	教育部教育総務課長	葛	博 之
	教育部学校教育課長	大 森	啓 睦
	教育部生涯学習課長	須 川	範 一
	教育部こども課長	吉 田	真 理
	企画総務部企画課副課長	森 川	高 博
	教育部教育総務課副課長	沼 田	信 一

報 告

- (1) 部活動の地域移行について

議 題

- (1) 第三次紫波町総合計画後期基本計画（原案）について

議事の概要

(開会 午後2時)

○ 教育部長

これより会議を開きます。

それでは、ただ今から令和5年度第2回紫波町総合教育会議を開会いたします。開会に際しまして、町長よりご挨拶申し上げます。

○ 町長

総合教育会議の開催に当たり、お集まりいただきありがとうございます。

本日の議題は、町の総合計画後期基本計画についてです。町にとっては大事な議題となりますので、よろしくお願ひします。

- 教育部長
続きまして、教育長よりご挨拶申し上げます。
- 教育長
本日の報告案件は、部活動の地域移行についてです。全国展開の中で、なかなか大変な地域もあります。国の動向など皆様と共有を図りたいと思います。
また、議題は、町の総合計画で重要な議題であり、教育分野について忌憚のない意見交換ができれば良いと思っています。どうぞよろしくお願い致します。
- 教育部長
4 報告「(1)部活動の地域移行について」、学校教育課よりご報告申し上げます。
- 学校教育課長 説明
- 教育部長
ただ今の報告について、皆様からご意見、ご質問はございませんか。
- 畠山教育長職務代理者
これからの見通しについて、お聞かせください。
- 大森学校教育課長
今年2月に只今検討している検討委員会のメンバーを対象に学習会を開催する予定です。県の方針を説明するとともに、地域移行についてどのような形が望ましいか意見交換をしたいと考えています。また、スポーツ部だけ注目しがちになりがちですが、文化部も視野に入れて検討していきます。
- 畠山教育長職務代理者
検討委員会のメンバーはどのような構成か教えてください。
- 大森学校教育課長 詳細説明
- 教育部長
他にご質問等ございますか。
- 内城委員
ある程度のガイドラインが見えてきたなと感じました。部活を行う環境づくりが課題と捉えていますが、小中一貫型のクラブ活動という方向性を模索しても良いのかなと思っています。
地域における限られた指導者、限られた場所において活動を持続することは、なかなか難しいのかなと感じています。町内ですで行われている小中それぞれスポーツを一括した地域運動クラブのようなものに移管することも考えらえると思います。
それから検討委員会のメンバーには利害関係の生じない学識経験者を入れた方が良いと思います。
- 教育長
学校教育でいえば、全ての学校に共通した種目の部活がない状況なので、学校単位で考えますと難しい面があります。また、土日となりますと、親中心となってきますので、平日との繋がりをどう考えるかなど、課題もあります。部

活動の地域移行については、また機会を設けて意見交換したいと考えています。

○ 教育部長

他にご質問等ございますか。なければ、議事に入ります。

議事については、紫波町総合教育会議設置要綱第4第1項の規定により会議は町長が議長となるとなっておりますので、ここからの進行につきましては町長にお願いいたします。

○ 町長

それでは、議事の(1)「第三次紫波町総合計画後期基本計画(原案)について」を議題といたします。説明をお願いします。

○ 森川企画課副課長、阿部教育部長、葛教育総務課長、大森学校教育課長、須川生涯学習課長、吉田こども課長 説明

○ 町長

ただ今の説明について、皆様からご質問・ご意見をお願いします。

○ 内城委員

親を主体とする記述が盛り込まれない計画が多い中、こういった記述は意義があると思います。子供と関われる時間が幸福と感じるような支援ができると良いと思いました。

また、第1節第4項の指標で、「不登校から復帰した生徒の割合」とありますが、全国的にオンライン登校が広がっている中、必ずしも「登校復帰」が必要とはならないのではないかと感じます。「復帰」というよりは、地域で繋がりを持ち生き生きと暮らしていくことができれば良いのではないのでしょうか。

それから、公民館についてですが、昨今公民館は防災拠点として使われることがあると思います。防災という視点も入れた計画があっても良いかと思えます。

第3節第3項のスポーツに関する記述についてですが、指導者の養成と資質向上を入れると良いかと思えます。広域でのクラブの育成という流れもありますが、部活動の地域移行の観点から、町として皆が集うクラブの育成することが大事かと思えます。また、スポーツクラブについては町としてどのようにお考えでしょうか。

○ 大森学校教育課長

不登校についてですが、復帰だけを目的としているわけではなく、社会的自立を見据えながら様々な支援を行うわけですが、第一歩を踏み出す上で、子どもにとって一番身近なコミュニティが学校であることから、このような表記としました。

○ 鎌田企画総務部長

防災についてですが、町では公民館は避難所として使用する場合があります。総合計画では具体の記述はありませんが、町の防災計画において盛り込んでおります。

○ 須川生涯学習課長

町のスポーツクラブについては、全て把握しきれていませんが、町体育協会と情報共有し、話し合いの場を持ちながら支援等の取組みを進めて行ければ良いと思っています。

○ 森田委員

ICT を活用した教育について、教職員が端末等を使いこなし、子供により良い教育ができるよう願います。ただ、教職員の中にはアナログから離れられない世代もあると思うので、指導について配慮していただきたいです。

また、小中一貫教育についてですが、規模の大きい紫波一中学区など、保護者の中には、なかなかピンとこない部分もあるかと思いますので、理解を深める努力をしていただければ良いと思います。

文化財についてですが、町の中で、あまり知られていない文化財の標柱を見かけることがあります。標柱は文化財を知るアイテムとなりますので、引き続き取り組んでほしいと思います。

それから、第3節第4項の中で、「誰かの役に立ちたい」と思っている中学生が9割もいることは大変素晴らしいことです。紫波町の中学生は人間としてより良い資質を持っているということだと思います。引き続き、取り組んでいただければと思います。

○ 大森学校教育課長

ICT を活用した教育については、町教育委員会で策定した4年計画の、今年度は2年目ということで進めております。来年度は、教わる学習から学び取る学習にシフトしていく計画です。今後も引き続き、指導、研修等を行ってまいります。

紫波一中学区は連携型の小中一貫教育を進めており、今年度は月1回学校持ち回りで校長の話し合いを持ち、各学校の現状の共有を図るなどしております。

○ 須川生涯学習課長

文化財の標柱については、予算の範囲で進めており、今後も取り組んでまいります。社会参加活動については、中学生が自発的に取り組んでいるところもあり、地域に根ざした活動が行われていることから、引き続き活動を支援してまいります。

○ 畠山教育長職務代理者

少子化対策が大きな課題と感じています。国の重要課題ではありますが、町でもできる対策があるのではないかと思います。

先日、紫波西学園でしあわせトークというイベントが行われました。地域の方々に集まっていただき、学校の課題について話し合うというものでしたが、関係者だけではわからない部分を地域の方からたくさん情報をいただきました。そういった意味で、地域の力を借りた教育というものが大事になってくると思います。

幼保小連携に関しましては、それぞれがお互いに子どもを見た上で、先生同

士で話し合いを持つことが大事であり、小学校との接続がうまくいくのだと思います。

昨今、非認知能力を養うことが重要視されてきておりますが、幼少期においてこれを養い小学校に繋げていきたいと思いますと言われております。予測不能なこれからの社会を生きていく上で、幼児期の教育は大事なのだと思います。

ある研修で、スクールソーシャルワーカーが不足しているという話を聞きました。学校に来られない子供たちにも、手を差し伸べられるようになれば良いと感じたところです。

あづまねカフェというイベントでは、中学校の生徒から「自分は将来、紫波町でスマート農業をやりたい」という声がありました。将来、自分の育った町で暮らしていきたいと思う子供が増えていくと良いと感じています。

○ 吉田こども課長

幼保小連携については、勉強会等の取組みを行っていますが、少しずつ研修を深めており、全体研修のほか、今年度においては、小学校区ごとに話し合いを持ち、研修を行っています。

少子化により子供は減少しておりますが、保育を必要とする社会環境の変化によりニーズは増えていると認識しています。

少子化の直接的対策ではありませんが、親が「子育て」をマイナスイメージと捉えないような世の中であったり、社会全体で支えていくという政策が重要だと思っています。そういう思いを込めて、第2節第1項を記述しています。

○ 教育長

非認知能力については、昨今注目されていますが、紫波町においては10年前よりこの言葉を引用しています。今後、ますます注目しなければならない言葉だと思っています。

○ 町長

教育部はこどもから大人まで広い範囲を受け持っています。人生経験も大事ですが、やはり知識・知恵があると、生きていく上で乗り越えられる部分があります。時代の変化で変わらなければならないものがあります。教育もしかり、町民が、次世代の教育という意識で関わっていくという仕組みが必要だと思います。

少子化に関しては難しい問題と捉えていますが、既婚率の低下など、私は、突き詰めれば育ててきた親に責任があると感じています。これからの教育はそういったところも教えていけないと思います。

本日は、いろいろと意見をいただきました。計画なので、具体的な表記は難しい面もありますが、後期計画案をまとめていきたいと思っています。

○ 町長

それでは、本日の議事については、終了としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

- 町長
ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。
- 教育部長
続きまして、5 その他に入ります。(1) 紫波町教育大綱(第2期)の改訂について、事務局から説明します
- 沼田教育総務課副課長説明
- 教育部長
このことについて何かご質問はございますでしょうか。
(質問等なし)
それでは、その他、皆様から何かございますでしょうか。
なければ、以上をもちまして、令和5年度第2回紫波町総合教育会議を閉会いたします。
お疲れ様でした。 (閉 会)